

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800013		
法人名	株式会社ピース		
事業所名	グループホームほりいけ		
所在地	福岡県飯塚市堀池268番地1		
自己評価作成日	令和5年10月27日	評価結果確定日	令和5年11月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和5年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で、外出や行事が思うように出来なかったが、家族と面会するという当たり前の日常を大切に、コロナ禍でも面会を継続していた。いつでもご家族と会える安心感と、ご家族もいつでも面会できるという安心感を大切に介護を実施している。  
 当たり前の日常が継続できる様なグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「日々の小さな喜びと笑顔を大切にありふれた幸せの実感」を目指し、大きなイベント開催ではなく、普通の生活を当たり前にする日々の支援が、入居者の笑顔と「ありがとう」となり、職員の働き甲斐に繋がっている。家族に入居者の暮らしぶりを率直に報告し、家族自ら感染予防に配慮し面会は短時間にされたり、一時入院に付き添われた家族からは職員の日頃の苦勞に謝辞があった。何よりも退院してきた入居者が職員を見て泣いて喜ぶ姿から、日頃の対応が伺える。今年2名の方を、いつでも連絡して良いとの医師の言葉に力を得て、看取りの経験が豊富な職員もあり全職員が一丸となって看取っている。笑顔で食事を召し上がり3時間後に旅立たれた103歳の入居者もあり、看取りを自然なことと捉えている。職員不足が課題でとなっているが、全職員がユニットを超えて協力し合い、培った地域交流を継続しながら、入居者に寄り添う支援に邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **すずらん／グループホームほりいけ**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った支援ができる様、スタッフ・管理者間で情報共有、話し合いを行い実践している。玄関に理念を掲示し、振り返りを行いサービス向上に努めている。	理念の「日々の小さな喜びと笑顔を大切にありふれた幸せの実感」を目指し、大きなイベント開催ではなく、普通の生活を当たり前にする日々の支援が、入居者の笑顔と「ありがとう」となり、職員の働き甲斐に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染症の分類が5類に設定になり中止していた運営推進会議も再開され、地域行事も少しずつ再開されてきているので、交流する機会を持ってもらえる様、支援していきます。	水害時は青年団を通じて紹介された近隣ビル2階に避難する予定で、職員が買い物に行く近隣のお店から野菜の差し入れがあるなど、地域交流が継続している。感染に配慮した学生実習の再開も待たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の慰問や行事はまだ中止しているが、運営推進会議の際、地域の方々に参加して頂き入居者さんの現状報告と、様子を観ていただく事で認知症の方を理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、市の担当者・自治会事会長・青年部・医師・看護師等に参加して頂き近況報告している。感染対策等の助言や、災害時の協力が得られる様をお願いしている。	今年度から協力医療機関の医師や看護師、自治会や地域青年部の代表、家族や入居者などの参加で定期に開催し、議事録は玄関で公表している。参加者から、獅子舞の中止や指定避難所の検討について情報を得ている。	運営推進会議設置目的に勘案し、運営推進会議内容を家族に配布されています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	3ヵ月毎に空き状況の報告を行っており、定期的に市の相談員の来所があり、近況報告を行っている。	担当者の紹介による入居者が複数名あり、度々来訪する職員に近況を報告している。研修案内や、ほりいけ通信に掲載した誕生祝いのスナップに記載された氏名は「ちゃん」ではなく「さん」でとの注意を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠せず、入居者さんが外の様子を観たり、玄関のベンチに座って過ごせる様にしている。ミーティングの際、拘束につながる言葉の再確認を行い身体拘束について理解し、防止に努めている。	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、家族の承諾を得て使用しているベッド柵やセンサーマットの使用を再検討している。運転免許を返納したばかりの新入居者は外出傾向にあり、ドライブに同行したこともあるが、職員の気を引く言動だけになり、見守りをしている。	今後も適切なケアを実践するために、適正化委員会記録の整備を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加は出来なかったが、ミーティング内で虐待について話し合いをして、再確認と理解を深め、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の方が後見制度を利用されており、制度を有用活用している。制度について学び、理解を深められる様努めている。	2名の後見人から定期的に送付される書類を記載し返送するなど、連携に努めている。玄関に整備している成年後見制度や日常生活自立支援事業のパンフレットを活用し、全職員で学習していく予定である。	今後さらに多様な家族構成が予測されることから、内外の研修参加などで、成年後見制度と日常生活自立支援事業の違いや内容の理解の促進を期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご家族に重要事項説明書、入居契約書にて、利用料、生活面、金銭管理及び、緊急時の対応等、説明し理解、納得して頂いている。また、ご家族、ご本人の思いを伺い納得していただける様努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望や意見は面会時に伺っており、入居者さんは会話の際要望を伺い、申し送りやミーティングの際検討し反映できる様に努めている。	入家族に入居者の暮らしぶりを率直に報告し、意見の表出を促している。家族自ら感染予防に配慮し面会は短時間にされたり、一時入院に付き添われた家族からは職員の日頃の苦勞に謝辞があった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りの場でスタッフからの提案や意見交換を行い、検討し反映できるようにしている。	月1回、手当を支給し19時から定例のミーティングを開催している。意見を言える環境を整え、職員が要望した椅子や備品等を購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの資格取得研修への参加で向上心を持ち働ける様勤務調整や、希望日、有給休暇が取得できる勤務体制が作れる様に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	求人募集は、資格、年齢、性別を設定しておらず、採用の際は勤務時間の調整等、出来る範囲で希望に添える様努めている。	20代から70代の男女の職員がロコミや紹介で夜勤専門や夫々の希望するシフトで勤務し、休憩室で昼休みを取り、終業時間も守られている。職員不足が課題となっているが、職員同士の関係がよくユニットを超えて協力し合い、止むを得ず夜勤に入った管理者は、職員1人の夜勤常の対応を学ぶ機会となったと話している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者さんに対して敬意を持って接し、支援が一方向的にならない様、寄り添い尊厳を持って対応できるように努めている。	虐待や人権に関するリモート研修などを受講し、入居者との日々のやりとりや接遇に生かしている。本人や家族の意向もあり、「さん」ではなく「ちゃん」で呼称する方もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍でリモートでの研修となり参加出来なかったが、コロナウイルス感染症の分類が5類へ変わり少しづつ外部研修も開催されると思うので、研修に参加できる機会を確保し、スキルアップとサービス向上に努めていきます。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナウイルス感染症によりクラスターが発生した際、対策や助言、不足物資の協力をいただいた。研修会での交流を通して得た情報を参考により良いサービスが提供できる様努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者さんが安心して生活できる様な環境作り、生活歴や、趣味等の話をする事でコミュニケーションを取り、スタッフの顔を認識してもらい、なんでも話ができる関係が築ける様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや要望を伺いアセスメントを行っている。会話することでコミュニケーションを図りご家族がなんでもいえる様な関係作りができる様努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と話し合い、ご本人の状態に合った、必要な支援ができる様スタッフで話し合い、出来る限り希望に添える様に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人のできる事、できない事を把握し日常生活の中でできる事が継続できる様声かけ、見守りにて支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は本人と家族が和やかな時間を過ごせるように配慮し、病院受診は出来る範囲でご家族にお願いしており、受診・外出・面会を通して、触れ合う機会を増やし、家族との時間を大切に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・知人・友人が面会に来られた際は、また訪問して頂きやすい雰囲気、環境作りを心掛けている。馴染みの病院への受診が継続できる様努めている。	家族に会えないストレスに配慮し、面会制限を最小限にしている。ホームからの外出は控えているが、家族と受診や外食、買い物などの外出を支援している。調査日、家族と外食に出かけられた入居者もあった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく笑って過ごせる様、席の配置を考慮し、話をするのが苦手な方は、スタッフが間に入りコミュニケーションが取れる様努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていたご家族とは退去されてからも関係を大切にしており、何かある際はいつでも相談に応じられる様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で、ご本人の希望、思いを聞き、希望に添えるように努め、意思疎通が困難な方は、ご本人の表情、行動、仕草等を見て、思いを汲み取り希望に添える様努めている。	職員にかまって欲しいとブザーを鳴らしたり、会話時腕に噛みついたがそっと職員にお菓子を渡す思いを汲み取り、寄り添う援助に務めている。新規入居者は、自由さと気楽な生活が嬉しいと率先してコップを洗ったり洗濯物を畳む等行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際ご本人さん、ご家族より生活歴、生活環境や利用されていたサービス等の情報を提供して頂き、入居後も本人さんと会話する中で聞き出していきスタッフ全員で把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル、排泄チェック表、記録や申し送りですべて1人1人の一日の過ごし方、心身状態、有する力等現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向と、担当スタッフ、ユニットスタッフ、申し送りミーティング後のスタッフの意見を盛り込んで介護計画を作成している。	本人の言葉で意向を記載し、新たなアセスメントシートで詳細にアセスメントを実施している。ミーティングでは担当職員によるモニタリング結果を共有した意見交換が活発に行われ、介護計画の作成や見直しをしている。	アセスメント結果を印字の色を変えて記録するなどの工夫で状態の変化を共有し、現状を踏まえた具体的な目標の設定が、ケアに連動する介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態・様子は個別で記録し、特別に変化等がある際は、申し送りやミーティングで話し合いをしている。スタッフ全員が情報共有できる様、連絡ノートを活用し把握に努め、介護支援や介護計画作成に活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族からの相談や状況に応じて受診、車いすの方の送迎、散髪等、希望に応じて柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルス感染症の分類が5類に設定されたが、安全のため、外出や慰問は中止しているが、地域の行事も再開されるようなので、交流する機会が持てる様支援していきます。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にご本人に、かかりつけ医があれば、引き続き診察できる様支援し、希望があれば協力医の訪問診療が受けられる様支援している。異変がある際は主治医に連絡し、指示往診が受けられる様、支援している。	協力医にいつでも相談できる体制が構築され、ワクチン接種も往診で全員が接種している。訪問歯科受診も支援し、かかりつけ医受診には職員や家族が対応し、受診ノートで情報を共有している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より状態が把握できる様、情報共有し、特変がある際は、主治医に報告し、指示を仰いでいる。看護職員が出勤している際は、健康管理のアドバイスや助言を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に付き添い入院中面会できないが、ご家族と病院の意向、ご本人の状態を伺い情報を共有し、安心して治療ができる様支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より、ご家族やスタッフ間で病状等の情報共有に努めている。重度化、終末期になった時は、改めてご本人、ご家族の意向を伺い、できる限り希望に添える様、主治医や関係者と連携し、ケアを実施している。	本人や家族の希望で2名の方を看取っている。103歳の入居者は笑顔で食事を召し上がり、3時間後に旅立たれた。いつでも連絡して良いとの医師の言葉に力を得て、看取りの経験が豊富な職員もあり全職員が一丸となって、普通の生活の中で自然なこととして見送っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、主治医に連絡し指示を仰ぎ、状況に応じて救急車を要請している。ミーティングの際は、定期的にマニュアルの確認を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練の実施により、避難経路、誘導の手順を確認している。運営推進会議では、避難場所等の協力も依頼している。各居室にはスプリンクラーを設置している。	4月と10月に夜間想定消防訓練を実施し、振り返りしている。3日分の食料や水、感染対策グッズを備蓄している。指定避難所までの経路が不便で、水害時の避難は近隣ビル2階との申し出を地域の方から受けている。	最近の異常気象の状況から備蓄台帳の整備で備蓄の過不足の確認や入居者の持ち出し書面整備で対策の推進を図り、災害時や感染発生時の事業継続計画策定を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前の生活歴や性格をご家族から聞き、フェイスシートを作成し、把握して普段からコミュニケーションを図っている。プライドを傷つけたり、強い口調にならない様に、穏やかな声かけを実施し対応している。	日頃から穏やかな声かけを実践し、入居者の思いを先ずは受け入れている。退院してきた入居者が職員を見て泣いて喜ぶ姿から、日頃から良好な関係を構築し尊敬の念を持って接する対応が伺える。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との信頼関係が築ける様、普段から入居者の方とコミュニケーションを取り、要望や希望を伺い、自己決定できる様に働きかけている。難しい利用者の方は表情や行動から思いを察し希望に添えるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっているが、職員本位にならない様心掛けている。その人らしい暮らしができる様、個々の体調・生活リズム・ペースに合わせた支援に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類選び等お手伝いしたり、アドバイスしている。整髪も、定期的に美容師の方に来ていただき髪をカットしていただき、馴染みの店を希望される方はそのまま継続していただく支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方に好きな食べ物や食べたい物を日常会話の中で伺い、メニューやおやつに取り入れて提供している。自力で食べる事が困難な方や食べ方が分からなくなっている方には職員が見守り・介助をしている。	定期的に食事会を催し、季節毎に恵方巻やウナギ、お好み焼き、時にカップ麺を楽しみ、フルーツゼリーなどおやつの手作りもある。入居者の状態に応じた食形の食事を準備し、夫々のペースに応じて見守りや介助をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の方々に応じた食事形態を提供している。食事・水分量をチェックし、摂取が少ない方には好みの食べ物や飲み物を提供し、しっかり経口摂取していただける様支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の方一人ひとりの状態に合った口腔ケアを実施しており、義歯の方は就寝前に洗浄している。口腔ケア時、職員が腫れや痛みがないかチェックし、ある場合はご家族に報告し受診をしたり、歯科訪問診療をお願いしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の状況は一人一人違うので、定期的に声かけしたり誘導を行い、できるだけトイレで排泄していただける様支援している。夜間はおむつ・パットを使用し、定期的にパット交換を実施している。	トイレ排泄が自立し、布のパンツを使用もある。日中はトイレ排泄を原則として、夜間はおむつやパットを使って入居者に応じた支援をしている。オムツ交換時には陰部洗浄等で、尿路感染を予防している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便困難な入居者様には、主治医より処方されている下剤等を使用したり、水分摂取量を把握し水分を提供するようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人でゆっくりと入浴される方は、一人でゆっくりと入浴していただき、時折見守りをしている。熱めのお湯が好みの方等おられ、好みの湯かげんで入っていたいただける様配慮している。	大きめ浴槽が設置され、見守りや介助で週3回の入浴を支援している。好みのシャンプーやトリートメント、整髪料や保湿剤を使用する方もある。「着替えだけしましょう。足だけ洗いましょう」の声かけでどうにか入浴される入居者からはこの頃、「入ると(気持ち)良いのだけど」の声が上がっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごせる様声かけしている。生活歴を把握し、馴染みの寝具使用やぬいぐるみを飾ったり好みの照明にし、夕食後は静かに過ごして頂き、安眠しやすい雰囲気作りをしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と連携し、定期薬と併せ、症状に応じた薬を処方して頂いている。薬の増減による様子観察も行い、情報は常にスタッフ間で共有し、主治医にも報告している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操後の配茶・おやつ時の飲み物をコーヒーが好きな方にはいつもコーヒーを提供している。洗濯物たたみは、数人の入居者が集まってされており、コップ洗いを毎回してくださる入居者の方もおられお願いしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でホームでの外出は出来ていないが、ご家族との外出はされている。月1回の病院受診の際、ソフトクリームを食べて帰苑されたり、定期的に昼食を食べに出かけたりされている入居者もおられる。来年の花見はホームで外出をしようと思っている。	家族と外食や買い物やされるのを楽しみにされている方もあるが、外出できない方が多く、自由に外出できる日を待ち望んでいる。中には、職員と散歩に出かけても落ち着かず直ぐ「帰りたい」と言われる方もあり、外出支援に苦慮している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室は施錠出来ない為、基本ご家族に管理していただいている。ご自分でお金を持ってほしいと希望され管理できる方は数千円お渡ししている。そうでない方は買い物に同行したりスタッフが購入してお渡ししている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴え時は、いつでも電話でお話ができる様支援している。ご家族からの手紙は居室に飾っている。節目の便り等で自筆出来る方はご自分で、そうでない方はスタッフが代筆し近況報告等も行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心掛け季節の花や絵画でホールを飾り付けている。入浴時には入浴剤を使用し、香りや色で更にリラックスしていただき気分転換できるような空間作りをしている。	玄関を入ると広い居間は天窓からの採光で明るく、4台のテーブルと椅子が並び、奥の厨房から美味しそうな匂いが漂っている。居間や廊下は清掃が行き届き、入居者は椅子やソファで寛いでいる。気楽に管理者に声をかけ、職員と談話する面会者の姿もあった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりくつろぎながら、のんびり過ごせる様、ソファを設置しており、傾眠されたりもするが、時にはスタッフも交え楽しく談笑出来る皆が集う場となっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある家具や衣類を持ち込み、本人様・ご家族と相談し安全に生活できる様配置している。気分転換のため、時には模様替えも行い好きな花を飾ったりしている。宗教の信仰も依然と変わりなく生活を送れる様支援している。	ユニットの花と担当職員名が書かれた表札はサイズや飾り付けなどの工夫で、居室間違いを防止している。毎朝清掃された居室は、持ち込み家具の配置に配慮し、家族写真や手作り作品、職員の寄せ書き等を掲示し、居心地の良い空間となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉には各々目印になる様なものを飾り区別できる様している。ご自分の手の届く範囲に生活用品を置きいつでも手に取り整理できる様工夫している。		